

1. 将来の航空交通システムの構築に当たっての基本的な考え方について

- 将来の航空交通システムの構築に当たっては、事業規模が大きく長期間を要すること、地上と機上の統合が重要となること等から、長期的なビジョンを策定し、関係者が計画的に技術開発及び整備を推進する必要がある
- 航空交通はグローバルに展開するものであることから、ICAOのATM運用概念を基本としつつ、欧米の計画等と調和し国際的な相互運用性を確保すべき
- 一方、以下のような我が国の航空交通の実態・運用環境やニーズの特徴を考慮すべき
 - 航空交通が空域や運用に制約の多い首都圏に集中しており、同圏域における処理容量の拡大が急務
 - 新幹線等の他の高速交通機関が発達していること等から、定時性・速達性等の面で航空に求められる利便性の水準が高い
 - 欧米に比べ山岳地帯が多いことや騒音回避のため、出発進入ルートの設定に制約が多い。また、地形の影響により、低高度空域での通信・レーダー覆域の確保が困難
 - レーダーや地上無線施設の整備が進んでおり、既に日本全土をカバー。また、航空衛星を世界に先駆けて整備し、安定的な運用を実現
 - 自衛隊及び米軍の訓練空域等が多数存在
 - 経済・技術水準の違い等から、隣接FIRとの一体的な運用が不十分